

平成27年度第2回社会教育委員会議 会議録

- 1 名 称 平成27年度第2回社会教育委員会議
- 2 開催日時 平成27年10月29日(木) 9:30~11:30
- 3 開催場所 君津市役所601会議室 公開・一部非公開・非公開
- 4 出席者 出席委員 安田委員 久野田委員 小泉委員 武田委員
鶴岡委員 佐々木委員 能城委員 黒澤委員
佐藤委員 石井委員 渡邊委員
(欠席: 中山委員)
事務局 山口教育長 宮崎学校教育課長
其山生涯学習課長 山中中央図書館長
小澤生涯学習交流センター所長 渡邊体育振興課長
矢野文化振興課長 布施生涯学習係長
大野社会教育主事 和泉司書
- 5 傍聴人 なし

6 会議概要

1) 開会

【鶴岡委員長】

今年もあと2ヶ月で終わろうとしています。今後の学校教育並びに社会教育に関する大きな課題があります。皆さんの意見を聞きながら協議を進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【布施生涯学習係長】

続きまして、山口教育長、挨拶をお願いします。

【山口教育長】

本日はご多用の中ご出席いただきありがとうございます。教育委員会では、少子化による学校の現状を踏まえまして、子どもたちが切磋琢磨できる活気ある、魅力的な教育環境を目指して学校の統合など、学校再編を進めています。

私は、教育の骨太の部分、学校の一番の指名は、心身ともに健全な人間を育て、社会に送り出すことと思っています。そのためには切磋琢磨できる環境

が必要だと考えています。

一昨日から学校再編基本方針の第一回目の説明会をもっています。地域の皆さんと対話しながら、よりよい教育環境づくり、学校再編をしていきたいと思えます。教育の質の向上と学校再編は、学校教育の視点だけではなく、地域と学校との繋がりがキーポイントとなります。まさに社会教育の視点が、今こそ大事なかなと思っています。古くから学社連携と言われてきました。これからの、地域、あるいは学校を支える社会教育のあり方はどうあったらいいのかという視点でご意見ご提言をいただけるとありがたいと思えます。以上、お願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。

【布施生涯学習係長】

(資料の確認)

ここからの議事進行は、委員長にお願いいたします

2) 報告

【鶴岡委員長】

次第4番の報告、学校再編について説明をお願いいたします。

【宮崎学校教育課長】

(資料①に沿って説明)

【鶴岡委員長】

丁寧な説明ありがとうございました。学校再編そのものについての議論は説明会、有識者会議がございしますので、その点についてのご意見はそちらでいただきたいと思えます。また学校再編と社会教育の関連については後の議題にありますので、それ以外で、ただいまの説明の中で確認しておきたいことがありましたらご質問を伺います。

【佐々木委員】

学級数が基準に満たない学校という点でお話がありましたが、君津市の小中学校の1学級あたりの子どもの数はどうなっていますか。

【鶴岡委員長】

説明をお願いします。

【宮崎学校教育課長】

君津市学校再編基本方針25頁に学校ごとの子どもたちの推移、その学校の今の様子がわかるようにしてあります。平成27年度は、どの学校も棒グラフで載せています。学級数も載せてあります。子どもたちの数はこれでご理解いただけたと思います。9頁にも「今後の学校別児童生徒数の状況」として表にしています。ご参照ください。

【佐々木委員】

そうすると平均化をここで述べるわけですね。転校生が増えて、学級が二つに分かれることもこれまでありましたが、今はひと学級最大何人までですか。

【宮崎学校教育課長】

基本的に国は40人学級で変わっていません。千葉県は、小学校1年生と2年生、中学校1年生は弾力的な運用という方針で、35人学級を採っています。

【佐々木委員】

君津市も同じ基準ですか。

【宮崎学校教育課長】

はい、同じ基準をとっています。

【鶴岡委員長】

他にありますか

【石井委員】

確認事項ですが、学校再編スケジュールのイメージですが、先ほど説明いただいて、平成27年中に学校再編基本計画を策定するとあります。27年中ということですから12月までだと思いますが、そうしましたら、その計画は教育委員会事務局で作成をされて、学校再編の有識者会議等への報告なり説明なりになるのでしょうか。市民との協働の関係もあろうかと思っておりますので。

それからスケジュール表を見ますと一部クロスしているところもありますが、議会等への報告は勿論ですが、少なくとも基本計画等についてはパブコメをしなければいけないかなと思います。そのあたりの具体的なスケジュールがわかりましたらご説明をお願いします。

【宮崎学校教育課長】

基本方針は、有識者会議、教育委員会議、総合教育会議も経てお示しいたし

ました。

基本計画ですが、マスタープランとして、さまざまな具体的な内容のものもお示ししてパブコメにもっていかうと思っています。

実施プログラムにおきましては、このパブリックコメント等を参考にしながら内容においては、当然第一次でできる意見合意ができた内容、事業等から落としていくという流れの中で実施プログラム1、実施プログラム2という形で、内容によって変えていくつもりでございます。

【山口教育長】

基本方針はすでに10月に作成しております。これは方針ですから事務局で作成しました。基本計画、マスタープランは、一番大事です。基本方針に肉付けして具体的な再編メニューを入れます。どの規模で学校を統合していくのか、ある程度の数値的なものも入れます。その計画についてはパブリックコメントも勿論やります。議会に議論していただくことも27年度中になります。

実施プログラムは、実際のA校とB校をいつまでに統合します、あるいは、小中学校一貫校を何年までにやります、どうかたちでやります、というものを実際に公表しますので、パブコメの対象になります。住民合意が一番大変なのは実施プログラムだと思っています。ですから丁寧に説明し、パブコメなどもして進めていきたいと考えています。

3) 議事

【鶴岡委員長】

よろしいでしょうか。それでは議事に進みます。議題「地域の活性化、教育の向上に資する社会教育について」の①から④まで説明をお願いします。

【布施係長】

(資料②に沿って説明)

【鶴岡委員長】

説明ありがとうございました。「学校再編に伴う社会教育の検討事項」、また「地域の活性化・教育の向上と社会教育」、「コミュニティ・スクールとは」、「コミュニティ・スクールの導入に向けて」、と4点ありました。これらについて、また広く地域の活性化など全般にわたってもご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

【佐藤委員】

学校再編に伴って、地域はどうなっていくのか。例えば自治会は二つの自治会が入る可能性もあると思うのですが、地域と地域の結びつきのイメージがつかめないのです。現在活動されている学校の行き帰りの「見守り」など、その方たちは地域が広がってしまって、どう活動していいのか、そこも含めて統合することによって、地域は本当に結びつきができるのか、結び合っていくのか。その辺はいかがでしょうか。どうクリアーしていけばいいのでしょうか

【鶴岡委員長】

その辺いかがでしょうか。

【其山生涯学習課長】

学校とコミュニティ自体も、自治会のつながりなどが増えることによってかわれる住民も増えたり、うまく活動をする方法などもあると思います。今後、前向きに考えていきたいと思います。

【佐藤委員】

今までにも、君津で廃校になった学校がありますが、その地域の人たちはどのように結びついた活動をしているのか教えてください。

【鶴岡委員長】

福野小学校、蔵玉小、香木原小などいかがでしょうか。

【其山生涯学習課長】

福野ですと久留里の自治会との結びつきは深くなっていると思います。子どもたちも一緒になるんで、統合された自治会との話し合いに参加しているわけです。

【佐藤委員】

現在うまくいっているのですか、活動は活性化されているのですか。

【山口教育長】

統合によって学校を取り巻く地域は広がります。ですから、地域の概念を変えていく必要があります。地域が衰退する、統合によって学校が無くなるといったことが、地域の活性化にマイナスの要因になるというのは理解しています。ですからそれも踏まえてやっていかななくてはと思っていますが、そのために子どもたちがある意味で犠牲になるのは避けたい、小さな学校のままでいるわけ

ですから、それは避けたいということです。

統合するにはプロセスがあるわけです。市がやるものではなく、統合準備委員会をつくって、地域の問題、後援会の問題、PTAの問題、それぞれいろんな文化や組織、或いは特性を持っていますので、融合させながらやっていく、「時間熟」が必要と思っています。それを踏まえて進めていかなければならないと思います。

実際に福野小は久留里と統合し広い意味で久留里の地域に参画しています。ただ学校との距離が遠くなっているなのでその辺の工夫が必要かなと思っています。

【小泉委員】

今の質問で、今まで廃校になったところは、地域はそんなに大きな隔たりが無い地区だと思います。福野は久留里と同じ地域なので、久留里に行くにはちょっと遠い所ということで福野に学校をつくったわけで、地区としては久留里というところだと思うわけです。

今回の統廃合は、もう一歩先の地区として違う地区と一緒にやっていこうということで、心配が出てくるのではないかと思います。

ただ、今、この時代だから、私はむしろ統廃合によって、大人たちの多少の戸惑いはあるかもしれないけど、子どもが成長することによって、子どもに引っ張っていってもらう地域、よりよい地域になっていくために、今、必要なことなのかなとも思いました。

教育長がおっしゃるように「時間熟」で、子どもの成長に伴って、その子たちが大人になっていく時には、手が取り合える、同じ地区だなと感じていくのかなと思いました。

統廃合して、すぐ問題がなくなるというわけではないと感じます。私が心配なのは、特色ある教育ということで、英語教育であったり、コミュニティ・スクールであったり、魅力ある学校づくりですが、親御さんがもし英語教育が良いなと思って越境したいと感じる可能性が出てくるのでは。

逆に私たちが意見を言って良い方向にもっていきたいと思っているコミュニティ・スクールですが、私としては、「高齢者」というべきではない高齢者がたくさんいらっしゃると感じています。昔と比べて20歳ぐらい違うのではないかと。60歳を迎えた方々はバリバリの現役と見えるし、その人たちの才能と能力を地域に活かすことは、すごくできると思います。

そう思うと、コミュニティ・スクールでは、その人たちが生きがいを持って、また、その人たちの才能を地区の人が受けることができるという意味ですごく良いと思いますが、それは決して一校だけの問題ではないと思うんです。

コミュニティ・スクールは、ここ一校にしましょうと決めて一生懸命やっても、他の所の人がそこに通うかということです。そのところを慎重にしてもらわないと、かえって、より格差が生まれるような地区づくり、学校づくりになってしまのではないかと心配になるのですが。

【宮崎学校教育課長】

まさしくその通りで、われわれは特定の学校に特化してではなく、モデル校として、成果のあがったものを市内のすべての学校、地域に普及していきます。そして、成果を皆で共有、享受しあうという方針でやります。

【小泉委員】

丁寧にご説明いただきましたが、そのところを強調して説明していただいたほうが、市民としては安心できます

【宮崎学校教育課長】

特徴の点について、皆で共有しあうということで、説明をしていきます。

【安田委員】

鴨川市の長狭学園では一貫教育はかなり昔からやっています。君津市は魅力ある教育環境を目指していかなくてはいけないのかなと思います。小さな学校だったら、切磋琢磨できません。能力の差がついてしまっているのです。

将来において、もし可能であればの話ですが、先ほど話に出ました秋津小学校は、コミュニティ・スクールの役割をしています。

小中一貫教育、学校再編でまとまったりする事もありますが、ぜひ、一教室に地域の代表サークル会、NPOなどに入ってもらいたいと思います。秋津小学校は、トイレとひとつの教室をシャッターで区切り、土曜日、日曜日にも自由に鍵の開け閉めをして、コミュニティの役割をはたしています。そこにピアノの先生とか、料理教室とかいろんな方々が来て、土曜日、日曜日にも子どもたちが入ってきます。将来において我々4人に一人が高齢者となるわけです。そういった構想もひとつ入れてもらえると有り難いです。

【鶴岡委員長】

この君津市が5町村一緒になって、かれこれ40年近くなります。ところが、いろいろな活動がまだ統合前の5町村を意識したブロック体になっています。ですからそのあたりの考えを変えていかないと、統合にあわせて、例えば地域の中にある福祉協議会はどうなるのか、保育園はどうなるのか、そのようなあ

たりもあわせて、40年も経つので、今までの「どこ村、どこ町」という意識をある意味では変えていかないと、再編計画は「おらが学校、村が無くなってしまう」そういう考えが残っている間は難しいと思います。

その意味では小泉委員が言われたように、子どもたちから意識を変えて、地域を変えていくような方法を進めていかないとと思う。まだそういう意識が残っているんですね。ブロックを解体していかないと難しい。説明会の中ではそろそろ成長してもいいのではと思います。

【渡邊委員】

学校が無くなると、とくに高齢者は反対。だけど、保護者の方は是非したいという。そこに大きな断層があるような気がしつつ、私は秋元ですが、鹿野山小学校が統合されて11年ですが、秋元小学校に勤務していた7～8年前、完全に一体化していると感じました。

なぜかという鹿野山の祭り、地域の文化を大事にしていこうよ、学校はなくなるけども、三島神社の祭りも大事、地域の誇りや地域の文化を意識したものと、俺たちの事も大事にしてくれているんだというメッセージがあると、地域の人たちに納得してもらえるのではと思います。

【布施生涯学習係長】

貴重なご意見ありがとうございます。地域の見方というのも時代とともに移り変わっていますが、現段階では、旧町村単位、あるいは地理的な要件での地域意識も大変強いかとも思います。勿論それも大事な視点ですので尊重していかなくてはなりません。

一方、人の動きが大きくできる時代になっていますし、情報も世界レベルで飛び交う世の中になっています。今までの地域を見つめる視点とそれとは違う考えでの地域の意識もこれからは育てていくことが必要と思っています。

社会教育では地域の見方を柔軟にしてく、カメラのレンズで言えばズームレンズのように思い切り絞るとき引くときがありますね。そのような柔軟な発想がもてる人々を増やしていけるようなところで活躍できると思っています。

本日お配りした資料に岐阜県の岐阜市立岐阜小学校の例があります。地域を越えて学校が結びつくというときに、いろいろな地域の方の複雑な感情を、コミュニティ・スクールが軸になって、じょうずに解きほぐしていきながら地域の見方を柔軟にしていき、手を結び合いながら頑張っている事が紹介されました。このような全国の事例からも参考にしていきながら今までの皆さまのご意見にお答えできる努力をしていきたいと思っています。

【鶴岡委員長】

ほかにご意見ございますか

【黒澤委員】

子どもを持つ親として、学校の統廃合が進められて子どもによい環境づくりを進めるという事はとてもよくわかります。その中で学校が遠くになってしまう事も考えられますので、子どもにとっての、登校しやすさ、学校への親しみやすさを念頭において説明していただくとありがたく思います。

国際化、英語教育ということですが、国際化イコール英語には限らないと思っています。私自身が日本と海外とを行ったり来たりした生活を送っていました。様々な言語が行き交っておりますので、ここは、英語に限らず、国際化に即した対応できる子どもにというような表現にできるように考慮していただけたらと思います。

【石井委員】

学校再編に基づいたコミュニティ・スクールの導入に向けて、社会教育の可能性が望まれる点、というところから言いますと、コミュニティ・スクールは横文字です。昭和30年代40年代ぐらいは、なんの疑問も無く地域の人たちが学校に入って、学校が困った事があれば、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんが協力して、ひとつの学校を作りあげてきた歴史があります。

現代に即した組織のあり方ということですが、今すぐにでも社会教育の現状の中で学校との協力ができるところはあろうかと思っています。

例えば、市内8公民館では、何百何千人による事業やサークル活動が行われています。そのサークル活動を何十年もしている方もいる。当然指導者的な立場にいる方がたくさんいると思います。その方たちが学校に入って、子どもたちにボランティアで、何か協力できることがあればしていただき、自然な形で学校に入っていく事が第一だと思います。そのための組織作りは必要かもしれません。

学校と社会教育の距離をいま少し具体的に身近なものにしていく方策も必要かとも思います。感想です。

【鶴岡委員長】

学校ボランティアの中で、地域の人が子どもと一緒に活動しているところもあるわけですね。

【石井委員】

その活動をすでに組織的にしているところがあれば、学校ボランティアとか、支援ボランティアとか、名前はいろいろとあると思いますが、そのあたりから身近にしていくといいと思います。

【久野田委員】

亀山に住んでいます。昨年から中学校と地域の文化祭を合同で実施しています。とてもまとまっていて良い催しです。統廃合について、小規模校のメリット、デメリットが述べられました。入学式、成人式などに参加していると、生徒が少ないということもありますが、生徒の活動の様子はたいへん素晴らしいものがあります。今あるメリットも取り入れていってほしいと思います。

もう一点、地域性があって、統廃合されたら、われわれの学校はかなり遠くの場所で、合併前の町村3つぐらいまたがることになるかと思いますが、文化の違いが気になります。

社会教育で学ぼうという立場においても農山村地域には差があると思います。公民館活動にも差があり、新たなメニューをしても人が集まらないこともあります。もっと公民館などは市民に強くアピールして、よりよく参加できるようなことがほしい。亀山のコミセンもいつも同じメンバーです。そういう現状を何とかしていく必要があると思います。

【鶴岡委員長】

他にありますか

【能城委員】

この発想自体、案は、文科省から出てきていると思いますが。この中に「保育園」という言葉が出てきません。地域で一緒に住んでいる子どもたちである「保育園」も一緒に入れてほしいと思います。厚生省関係で入れづらいと思いますが。

統廃合を含めて考えると、今、車社会の中で、市の行政の中の交通体系を考えると、私は自転車道を昔から必要という自論を持っています。

まだ幹線道路にも歩道が抜けているところがあります。館山道の4車線化でダンプカーが一日100台走るところにも歩道が無いのです。県にも歩道を作ってほしいと働きかけをしているところです。法律では、自転車は車道を走る事になっていますが、歩道を走る場合も左を走るのが基本ですね。自転車が走れる自転車道などを土木課に働きかけて欲しいです。

各地区で文化祭を通じて、いろいろな取り組みをしています。周南地区では、人間は出ているけど、来ている人は一生懸命していますが、出ている人は地区

の1割にも満たないです。残りの9割をどういうふうに盛り込んでいくのか、地域活動の中では大きな問題が残っていると思います。場所が取れなくなるほど、身動きできなくなるほどの活動ができないものかと思っています。

【山口教育長】

先ほどから「統廃合」という言葉が使われていますが、われわれは「統廃合」という言葉は使いません。それは、一つが残って一つが廃校になってしまうというニュアンスは必ずあるわけですが、それぞれ文化とか歴史も伝統もあるわけですから、それを引き継ぐという意味で廃止はありえないです。次の新しい統合校で全部継承するという意味をこめて「統合」で行きましょう。

【鶴岡委員長】

言葉も気をつけたいと思います。

【佐々木委員】

新しく制度を作るのに、日々子どもたちと関わって頑張っている先生方と教室の子どもたちが生き生きと元気になるような結果になって欲しいなと思います。校長先生や現場の先生たちの姿がもう少し見えてきたらいいかなという感想を持っています。

それから、社会教育と学校教育の接点に学童保育があると思っています。放課後、一旦学校から離れた子どもたちの居場所が必要だという事で、学童保育や児童館があると思っています。そこと、君津市の社会教育の豊かな実践がしみ合う場面が出てきたら素敵かなと思います。

【渡邊委員】

君津市の中で2点あると思います。一つは学校評議の制度問題、もう一つは前期後期の問題だと思います。

それらに、今、教育委員会が向き合っている大きなテーマへの解決策があるような気がします。そのあたりも考えのひとつに入れていただけるとと思いますし、私たちも、今後の中で協議していきたいと思っています。

【鶴岡委員長】

それではよろしいですか。

【渡邊委員】

開かれた学校教育とか地域のコミュニティの核となるという事に対して社会

教育はどうしたらよいかのかが私たちの大きなテーマです。委員長にお願いですが、委員長を中心に自主的な勉強会をもって、コミュニティや君津市の抱えている社会教育の問題は何だろうかと整理していきながら、必要に応じて教育委員会に提言できるとうれしいですね。

【鶴岡委員長】

自主的な事になりますが、皆さんがご希望すれば月1回、2回そういう場を設けていきたいと思いますがいかがでしょうか。事務局にそういう機会を設けていただきたいと思います。期日等は相談をしながら進めていきたいと思いません。よろしいでしょうか。

(異議なし)

【鶴岡委員長】

では、残りの⑤について事務局からお願いいたします。

【布施生涯学習係長】

(資料③に沿って説明)

【鶴岡委員長】

昨年、今後の公民館について意見をしたわけですが、今後について社会教育の施設・設備面について皆さんの中からご意見質問があればお伺いしたいと思います。

【小泉委員】

少し戻ってしまいますが、学校統合ができた時、子どもたちの通学に通学バスを走らせる事になったりして、お金が入用になることも出てくると思います。今まで、私は一市民として社会教育、学校教育など、課ごとに縦割りになっている事が多いと思います。学校の中でも社会教育や公民館活動が行われていることはあまり無いような気がします。空き教室に毎週何曜日はこの教室を使っている、先ほどの秋津小学校のように、公民館活動が学校で行われているということは無いと思います。今後はそういうことも考えていかななくてはならないと思います。一方ではお金をかける、一方では節約するという事を考える必要があると思います。

今後そのような事を考えていく際には、学識経験者だけではなく、新しい若者の方がSNSやネットとかで多く情報を持ち、斬新なアイデアが出てくるのではないかと思います。是非メンバーに入れて欲しいと思います。

建築家のような方も入れて「こういうコストでいいものができますよ」というような事も情報として入れてほしいと思います。

【其山生涯学習課長】

検討委員会には、様々な方を含めていきたいと思います。

【石井委員】

これから作ろうとしている検討委員会と市のファシリティ・マネジメント計画の関連性を伺えますか。

【布施生涯学習係長】

28年度以降に、市で全庁的な施設管理の総合計画を作る予定になっております。そちらと密に連絡を取り合いながら、全庁的に進められる現実的、具体的な最良の方策を考えたいと思っております。その準備を今年度中に行い、次年度以降円滑に検討委員会が進められればと考えていますし、その検討委員会につきましても、生涯学習課長が申し上げたとおり、様々な立場の方、もちろん社会教育に日ごろからご理解の深い方、逆に社会教育にあまり詳しくない方の視点も大事だと考えて、そのような方のご意見もとり入れながらと考えております。

【石井委員】

ぜひとも、多方面からの人材で検討委員会を作っていただきたいと思います。それで全庁的な計画の中にその結果は多少反映されますか。

【布施生涯学習係長】

勿論全庁的な方向性と合わせていく必要がありますので、そこについては、きちんと連絡を取り合いながら進めていきたいと考えております。

【小泉委員】

ひとつお願いです。コミュニティ・スクールで地域の人を注ぎ込む事もいいと思いますが、地域の人だけで固めるのではなく、プラスして東京とかの大学生のコーラスとかゴスペルとかパフォーマンスを取り入れて、子どもたちに見せて子どもたちが「あれやってみたいな」「こういう大学に入りたいな」とか、子どもたちの夢が膨らんでいく、そのようなものも、臨機応変に考えていただきたいと思います。

もうひとつ、私が子どもの頃は地区別のお祭りがあると、その地区の子ども

たちは公休で帰った事もあるのですが、そういうことも今後統合する事によって出てきてもいいと思います。

今まで、学校と地区の歩みは絶対に離せなかったことではないでしょうか。地区の行事を学校でやっていたこともあります。学校はその責任を、統合しても持ち続けていく使命があると思います。国から決められた規則があるかもしれませんが、是非その辺を臨機応変に捉えてもらって、君津市は、夢を持てるような学校作りをしていただきたいと思います。

【鶴岡委員長】

個人的な意見です。今、公民館がいろいろな事業をしていますが、それぞれ同じような事業をしているところもあるようです。例えば、小櫃公民館と上総公民館と一緒に、あるいは小糸公民館と清和公民館と一緒にやろうよという、そういう事業をやる中で、地域の交流もできるし、そういうところから底辺を広げていくとか、たとえば保育園同士の交流など、そのような発想をやっていただきたいなと思うのです。いずれ社会教育施設への意識も変わっていくと思います。例えば中央公民館がやる行事に清和の方が参加してもいい訳で、意識を変えていく事が、大きな市全体で考えていく事業を進めていく上では大事ではと思います。

【鶴岡委員長】

他はよろしいでしょうか。いろいろ課題もありますが、一方君津市の経済的な現実がありますので、厳しいわけですが、今後検討委員会等を含めて、私たち社会教育委員会としてもできるだけ協力していきたいと思います。

それでは、これで議事を終了します。

4) その他

(事務局より今後の予定について事務連絡)

(閉会 11:30 分)